デジタル印刷分野へ事業拡大

田中凸版　九州初のSurePress導入

㈲田中凸版（福岡市博多区吉塚、田中潤一郎社長、☎092・622・0641）はこのほど、セイコーエプソン製IJデジタル印刷機「SurePress L－4033A」を導入。九州地域のラベル印刷会社から、小ロットのラベル製造に関する受託事業を開始した。今後、同社が培ってきた製版ルデータの加工技術を応用し、デジタル印刷の可能性を模索するとともに、同地域に対してPR展開を図る方針としている。

田中潤一郎社長

今年４月に導入したエプソンのデジタル印刷機「SurePress」

同社は長年にわたって、ラベル印刷の製版事業に携わっており、九州地域で高い信頼を獲得している。同社の手がける製版は、樹脂凸版と亜鉛凸版。売上の80％は、ラベル関連。短納期の要望には、午前中のデータ支給で夕方の出荷に対応するケースもある。

しかし、製版業務だけでは成長が難しいとの企業判断に基づき7年前から、ワイドフォーマットのインクジェットプリンタ（IJP）を導入するなど、デジタル印刷事業に注力。現在、3台を稼働させている。

デジタル分野への取り組みについて、田中社長は「当社が事業を開始した約30年前には、九州にラベル印刷の製版会社がなかったため、早い段階で印刷会社との信頼を得ることができた。その関係は現在も継続しているが、一方でマックDTPの普及に伴い、ラベル印刷会社が製版を内製化する傾向にあり、かつての顧客がライバルになるケースも現れている。むろん当社でも、そのような状況を予測しており、5年前に九州地域で初めて、凸版CTPを導入した。しかし、そのような傾向はさらに進行しており、当社が生き残るために、ラベル印刷会社が対応しにくい仕事を代行する目的で、小ロット分野に取り組むことにした」と説明する。

同社では4月、SurePressを導入。ワイドのみならずナローウェブにも対応する体制を構築した。1カ月間のテスト稼働を経て、現在は本格的なビジネスを開始。「ラベル印刷会社が同業者に外注する場合、仕事の詳細が外部に知られてしまうことを避けたい気持ちがある。その点、当社はラベル印刷会社にとって〝第三者的立場〟にあり、競合先にはならないため、安心して発注できるのでは。事実、そのような小ロットの引き合いが入り始めている」（田中社長）としており、これまで培った製版のノウハウをデジタルに応用し、極小ロットをはじめ、可変情報などの印刷にも対応する方針。

製版会社だった同社にとって、課題は〝抜き加工技術〟。そのために現在は、抜き加工に関するノウハウを蓄積しつつ、安定した高品質ラベルの製造を目指して技術を向上させている。

同社では、デジタル印刷に関する認知度向上を目的に、九州地域でPRを推進。田中社長は「ラベル向けのデジタル印刷機を九州地域で導入したのは、おそらく当社が初。まずは地域内で最初に取り組まなければ、ビジネスで優位に立つことは難しい。今後は、さらにノウハウを高め、小ロットの分野において、ラベル印刷会社の力になりたい」とコメントしている。

クロスアクセス

PMコードが高評価
実演を通じてPR展開

㈱クロスアクセス（京都市北区紫野雲林院町、山口悠社長、☎075・432・2024）は現在、2次元コードをカラー化することにより、既存コード以上の大量情報を格納する「PMコード」について、ラベル市場での普及に注力している。同社はラベルフォーラムジャパン2012」に出展し、実演を通じて同コードの機能を紹介。来場者から高い評価を得た。

同社は昨年11月、パソコンのサポート会社が前身となり、ラベル業界でのPMコード普及を目的に発足した。同コードはスマートフォンなどのアプリにより、情報を読み取る際に、音楽やリッチコンテンツなどを瞬時に再現できる。インターネットやモバイル通信網も利用可能としており、さまざまな情報配信を実現できるため、ICチップを必要とせず、印刷物にそのまま大量の情報を格納できることから、ラベルの高付加価値化に貢献する。

ラベルフォーラムのテーブルトップショーでは、カラー印刷されたPMコードをスマホのアプリで読み取る実演を行いつつ、その高い機能を説明。

山口社長は「来場者からの評価は高く、数件の受注をいただいたほか、引き合いも多数あった。当コードは、ドコモやauなどの通信会社をはじめ、朝日新聞社ともライセンス契約を結んでいる。当コードは、ラベルの高付加価値化を実現する〝器〟であり、ラベル印刷会社が積極的にご使用されることによって、進化を遂げるのでは、と期待している」とコメントしている。

ラベルフォーラムでPMコードの特性を紹介

顔

㈱ダイキョウ
慈幸 信治さん

東京営業所をもう一つの柱に

私が和歌山の本社から東京に来たのは、約3年前のことで、東京営業所開設のために赴任しました。東京への進出は私から社長にお願いしました。

当社は地元の和歌山や大阪など関西に得意先を持ちラベルを販売していました。安定はしていましたが、今ある商圏だけでは今後の成長はあまり見込めないとの思いから東京営業所開設を進言したのです。

東京への進出は同業の先輩から影響を受けました。その方も数年前に東京に進出されて、苦労しながらも成功を収めました。その姿を見て、「自分も」と奮い立ちました。

最初に借りた事務所は南青山のレンタルオフィスで、1人で業務を始めました。そこは電話1本、机一つという小さな部屋でした。青山を選んだのは、当社が得意とする化粧品関連の会社が多いことからです。また、化粧品などおしゃれにかかわるラベルをつくっているので、どうせ事務所を開くなら、おしゃれな街がいいな、という私の希望もありました。

事務所開設後は1人で飛び込み営業を始めたのですが、最初の1、2カ月はほとんど受注できず、本当に大丈夫かと心配になったものです。

その後、営業を続ける中で、取引先からの紹介やプライベートで知り合った方からの紹介などで、少しずつ仕事が増えていきました。やはり、人の縁が大事だとあらためて感じました。

昨年は震災があり、一時、取引先でもイベントなどが中止になるケースがありました。このため発注がストップしたり、納品したシールが使われなかったこともあったようです。もちろん現在、受注は平常どおりに戻っています。

今年7月、東京事務所を同じ南青山のオフィスビルに移しました。それとともに営業所員を1人増強し、今は2名体制で営業しています。

事務所も大きくなり人員も増えましたので、売り上げもそれに見合った規模にしていきたいと考えています。将来は東京での売り上げを和歌山と同等にし、当社の柱となるよう努力したいと思います。

焦点 中

組合員減少 課題と克服

新グループが設立する理由とは

全日本シール印刷協同組合連合会（小宮山光男会長）の組合員減少に歯止めがかからない状況は、10年来の組合員事業における課題であり、また減少の理由に関しては、時を隔てた現在も、大きく変わらない。

組合退会の理由でもっとも多いのが「後継者不在」や「廃業」であり、小・零細企業がほとんど。バブル経済に沸いた20年前、ラベルを含めた印刷産業が「3K（きつい、汚い、危険）」と称されるなど、次世代の経営者層を育てる環境が整っていなかったことが要因とされる。当時、ラベル印刷を家業としている事業者の中には、子息が別の業種に就くケースが少なくなく、そのような時期にラベル業界へ入った若手は今、40代。企業の中心を担う年齢層に到達している。また、次期経営者としての育成も進んでおり、企業によっては、経営者に就任しているケースもある。

いつの時代も、魅力的な業種には多くの人材が集まるもの。それが、ビジネススタイルの多様化につながり、結果的に産業発展を迎える。逆に人材不足の状況下では、業界内でビジネスに対する思考性のワンパターン化を招き、産業として成長しにくい状況へ陥りやすい。ラベル業界はすでに20年前から、組合員数の減少を予感させる素地があったといえる。当時、ラベル印刷業界の認知度を世間に広めるとともに、若手業界人を育成するための環境を整えたならば、組合員の減少といった長年の課題を回避できた可能性がある。過ぎ去った時期は戻すことができない。

しかし、組合員数の減少を食い止め、再び活性化させるためのヒントはある。

ラベル業界では現在、組合団体のほかに、同業者や関連企業などによるグループ組織の設立が相次いでいる。具体的には①同業者としての親睦を深め合い、業界発展の意識を高める②同業者間でビジネスを推進しつつ、天災などのトラブル発生時にフォローし合う③ラベル製造技術の知識を補完し合い、場合によって仕事の共有化を図る、などが挙げられる。

新グループでは希望者を募って研修会を開催するケースも

中でも①は、工業会として設立されるケース。新潟県をはじめ、今年7月には、長野県でも発足。活動内容は組合と似ており、研修会や親睦会などを定期的に開催しているが、地域性もあり、企業間の結束が強い。

②は、大地震や洪水などの自然災害によってラベル印刷などの生産活動に支障をきたした事態を想定し、あらかじめ同業者間でアライアンスを構成するケースといったもの。さらに、共同でビジネスを推進するケースもある。

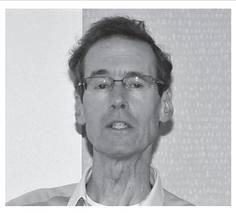
③は、主に若手業界人の中で形成されているが、特徴としてフェイスブックやメーリングリストなど、インターネットを介して情報交換を積極的に行っている点が挙げられる。そのため、従来の団体組織と異なり、構成メンバーの人数も明確ではない。組合のような事業活動への参加が中心ではなく、「好きな時に、好きな活動を、好きなメンバーで」というスタイルが主流。能動的に行動する若手業界人によるこれらのグループ組織はこれまでの業界団体に見られなかったパワーを感じさせる。今後、さらに増えることが予想される。

いずれのグループも、設立目的によって千差万別だが、共通するのは「組合では諸般の事情により実現できなかった活動を、新組織で率先して手がけている」点。おそらく、ここに「ラベル業界の組織」としてのメリットが隠されている。

（続く）

インフォトレンズ講演会を主催

世界のデジタル印刷機 市場拡大を予測


ロバート・リーヒー氏

デジタルイメージング、ドキュメントソリューション市場の調査会社・㈱インフォトレンズ（東京都渋谷区恵比寿、山内亨代表）は7月11日、港区港南の東京コンファレンスセンター・品川で「ワイドフォーマット&ジェッティングテクノロジー コンファレンス2012」を開催し、デジタル印刷機器のメーカー、販社の担当者ら約50人が参加した。

ラベル関連では、同社アナリストのロバート・リーヒー氏が「ラベル・パッケージング市場最新動向と予測」「ラベル・パッケージングコンバーターの意識」と題して世界のデジタルラベル印刷機市場を解説。このうち市場動向については「現在は欧米を中心に普及しているが、世界的に在庫の削減で無駄を省く動きが拡大している中、少量・多頻度の発注に対応できるデジタル機は、少なくとも今後5年間、電子写真・インクジェット共に大幅な市場拡大が見込める」と見通しを示した。

また、主に米国のラベル・パッケージ印刷会社を対象として行ったアンケートの結果を踏まえ「小ロット化に伴い、複雑化したワークフローの管理が課題となっており、専用のソフトウエアへの関心が高まっている」と分析した。

同氏はさらに、5月に開催されたdrupaでの出展内容をもとに印刷機メーカーの動向も分析。「日本企業を含む多くの出展者が、ラベル・パッケージ向けに優れた印刷品質の製品を開発しており、今後は製品化で先行していた企業が撤退する例も出てくる」との見方を示した。

Vieps
活きた情報がここにはあります
毎月の勉強会の内容をブログで公開中！
VIEPSの活動を携帯でチェック！ ⇨
http://www.vieps.net/

業界短信

東海北陸協組が懇談会…東海北陸シーリング印刷協同組合（岩田真人理事長）は8月28日㈫午後6時から、名古屋市中区栄の料亭つたで同協賛会（岡野忠章会長）との懇談会を開催する。これに先立ち午後4時からは、名古屋市中区丸の内のリンテック㈱名古屋支店で㈱アサプリホールディングスの松岡祐司社長を招いて「見える化から始める収益改善」を題材とした講演会を実施。なお同協組の事務局がこのほど、次の住所に移転した。なお電話番号などに変更はない。

〒460－0007 名古屋市中区新栄2－2－7 東和マンション広小路901

フナミズ刃型製版が移転…㈱フナミズ刃型製版（木原一裕社長）は8月17日㈮から、次の住所に移転する。

〒351－0012 埼玉県朝霞市栄町4－5－24 ☎048・465・2140 FAX048・465・2141

サトーが新会社設立…サトーホールディングス㈱（松山一雄社長）はこのほど、介護・福祉事業者に同社のプリンタやサプライ製品を販売するサトーアドバンス㈱（羽生光孝社長）の設立を発表した。

訂正…本紙7月15日号7面『インターフェックス』記事中の右上写真に誤りがありました。正確には『貼付の向きを変更可能（不二レーベル）』です。訂正し、お詫びします。

「UV―LEDハンドブック」を発刊

インテグレーション・テクノロジージャパン

UV硬化システムのサプライヤーであるインテグレーション・テクノロジーリミテッドはこのほど、「UV-LED Handbook（UV―LEDハンドブック）」を発刊した。

本書ではデジタル印刷機やインクジェットプリンタ（IJP）、アナログ印刷機で利用されているUV硬化技術に関して、材料の化学特性や健康、安全性、システム構成、出力、コストなど主な基礎知識を集約している。

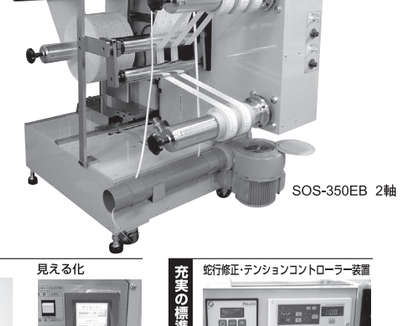
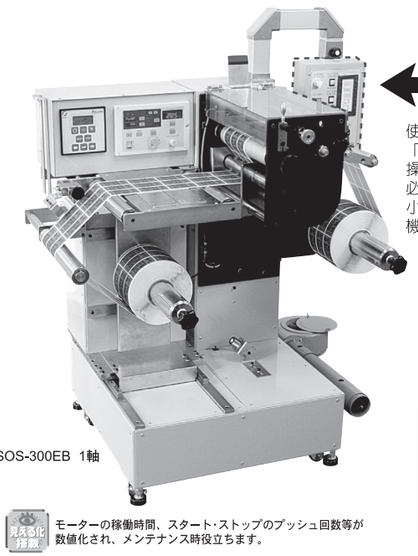
担当者は「UV硬化アプリケーションは導入が進んでいるが、新しい技術であるためより正確な知識が必要。導入に向けシステム理解の参考になればとの思いから当社で編集した」と発刊の経緯を述べる。

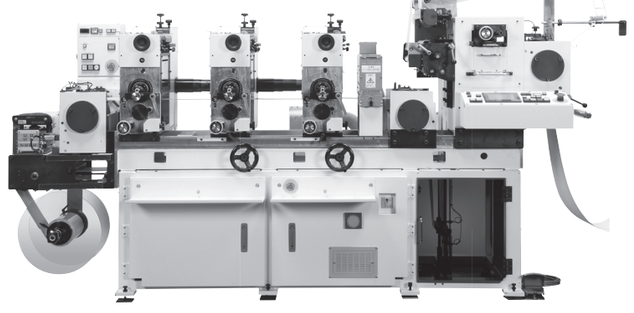
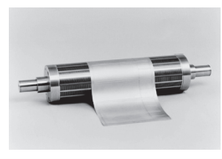
同社は英国に本社を置いており、今年3月には日本のサポートオフィスを東京都府中市に開設した。同オフィスによるマーケティングとともに同書により、UV硬化システムに関する理解を広め、機器などの普及を目指す。

▽サイズ…A5判変形▽ページ数…150頁▽英語表記▽価格…1050円（税込み）

問い合わせは同社日本サポートオフィス（☎042・310・9717）まで。

「ラベルフォーラム出展の新商品8月1日発売開始」
糊だまり防止液 グルーバリア®
静電気防止液 静電バリア
グルーバリア　検索
KS Label&Chemical 有限会社 清宮シール お問合せ ☎0276-37-4712

ラベルのレベルが違う。 SANWA COKEN
SLITTER SOS-300EB Series　SOS-300EB 1軸　SOS-350EB 1軸　SOS-300EB 2軸　SOS-350EB 2軸
「仕上げる拘り」多機能スリッター
様々なユーザーニーズを凝縮し、使いやすくコンパクトな設計開発を行いました。
①パスラインが短くかつ正確なスリットを行うための「蛇行修正装置」
②大きなロールサイズに対応し、自動的に張力をコントロールする「テンションコントローラー」
これら付加価値機能としてを標準装備いたしました。
数々の特別装備とともに「仕上げる拘り」をお届けいたします。

SOS-350EB 2軸

SOS-300EB 1軸
見える化搭載
使いやすい角度に調整でき、「見える化」も実現した操作パネルとなります。必要なスイッチレイアウトに小型タッチパネルを採用し機能を凝縮。
使いやすい操作パネル　操作パネル　見える化
充実の標準装備　蛇行修正・テンションコントローラー装置
豊富なオプション　ラベル落丁6列MAX　エアーシャフト　付加価値機能　スコアカット
見える化搭載　モーターの稼働時間、スタート・ストップのプッシュ回数等が数値化され、メンテナンス時役立ちます。
株式会社 サンワコーケン
〒363-0008 埼玉県桶川市坂田802
TEL.048-728-0309 FAX.048-728-2739
見積り専用フリーコール 携帯・PHS OK 0800-111-3838
www.sanwacoken.co.jp
メンテナンスのご依頼は代表番号へ… TEL.048-728-0309
営業受付時間／月～金曜日（祝日除く） AM9:00～PM18:00
営業品目 【機　械】 連動カッター　DHシリーズ　オートカッター　PT-αシリーズ　高速カッター　PTS-αシリーズ　スリッターシリーズ　巻取機　巻換巻締機　ラベル検品機　紙管切　折り機　スプレーBOX　帯掛機　他　各種特注生産機
【消耗品】 シール用UVインキ各種　印刷資材各種（パウダー、UVランプ他）

三條機械の間欠式ラベル印刷機＆高硬度 FLX ダイ・ロータリーダイ Series
コンパクト、効率化を実現
超小型凸版間欠機、誕生
ラベルフォーラムジャパン 2012　弊社ブースに多数ご来場いただき誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。
Compact・Simple CS-200

〈仕様〉
最大原反巾… 200mm
最大送り…… 120mm
最大速度…… 150imp/min
◎ CS-200-3CLF（3色＋ラミネート＋平抜き）全長 3,000mm
◎ CS-200-3CLFx（3色＋インラインラミネート＋フレキシブルダイカット）全長 2,600mm
高硬度フレキシブルダイ
フィルムラベルのカットに最適。長寿命・低価格・短納期
より早く、より正確に成型するために
E-mail によるオーダーで
E-mail ds-flx@sanjokikai.co.jp
手描き図面は FAX によるオーダーで
FAX 0256-41-1308

SANJO 株式会社 三條機械製作所
東京支店　〒101-0041　東京都千代田区神田須田町2-11　電話(03)3253-8351　FAX(03)3257-0828
大阪出張所　〒542-0081　大阪市中央区南船場2-4-1（美貴ビル）　電話(06)6271-6987　FAX(06)6271-6982
本　社　〒959-1192　新潟県三条市猪子場新田1300番地　電話(0256)45-3132　FAX(0256)45-6429
工　場　三条・高崎